

## 第1回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会 食文化・産業振興WG部会 議事録

○日 時 平成23年7月12日（火）20時から21時まで

○会 場 美濃加茂市生涯学習センター202会議室

○参加者 美濃加茂市 大矢正昭委員（部会長）・田中強委員

川 辺 町 加藤孝明委員

富 加 町 小島一彦委員

七 宗 町 長谷川嘉彦委員

\* 事務局：定住自立圏推進室：井戸伸

坂祝町総務課：三品智裕課長、川辺町総務企画課：座馬隆吉課長

### 1 懇談会、部会のあり方について

事務局：みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会とWG部会のあり方を説明。昨年度までワーキンググループで事業を掘り下げて企画してきたが、今年は全体を見通して意見をいただきたいことを説明。平成24年度にむけた事業の熟成のときとしたい。（平成24年度の協定、ビジョン更新のスケジュールを説明する）

全委員：了承。新たな委員も順次加わるため、今年度は全体像を検討する。

### 2 役員の選出

部会長：大矢正昭委員

副部会長：小西輝幸委員

### 3. 平成22年度産業振興ワーキング提案事業について

小島委員：しし肉の特産品開発事業はどこまで進んでいますか

事務局：平成22年度において産業振興ワーキンググループの皆様から提案いただいた事業です。本年度は事業主体を美濃加茂市観光協会として事業化にむけた課題整理のための社会実験を予定しています。この部会からも大矢部会長、小西副部会長さんらが参加いただく予定です。

大矢部会長：しし肉の特産品開発という企画は、昨年懇談会ワーキンググループから生まれた企画です。食文化産業振興の分野は広いため、どんな事業を研究していくか、その選定がポイントでした。イノシシにスポットあてるまでにほかの対象も検討してきました。検討した時期が冬という時期もあり、会で絞り込んでイノシシになりました。イノシシは市町村も関係なく移動し、圏域の農作物への被害も問題になっているため、このイノシシを使って特産品をつくれないうかが、定住にふさわしい事業ではないだろうかということでテーマになりました。商業ベースで検討するにはリスクも高いため、肉質の分析など研究調査を進めることがまず基本であり、中身をねりあげてきました。今後、その結果などを七宗町や富加町とも共有していきたいと考えています。

小島委員：郡上では奥美野カレーなどが動いています。イノシシでも何かできるとよいと思います。

大矢委員：これまでもウィンナーやハム、ソーセージなども仮の試作品をつくって、みました。それとなくおいしいものができたと思います。しかし、商業ベースにのせるにはまだまだ研究が必要。特に、今は食の肉に市場は敏感なので、調査をもっと進めたいと思います。

加藤委員：イノシシ・・・商業ベースに乗せるには難しい課題もあることはわかっていますが、じっくり考えていけるといいです。

事務局：それでは、今後も美濃加茂市観光協会を中心に調査研究を進めることでよろしいでしょうか。

全委員：了承。

#### 4. 現在のみのかも定住自立圏共生ビジョンへの意見等

加藤委員：本年度中に白川町、八百津町、東白川村も加わることになれば、定住自立圏としてあらたな一歩がはじまる時。川辺町も昨年スタートしたが、当初は、美濃加茂市と坂祝町との間でアイデアがたくさんあり、特に懇談会ワーキンググループでなにかやらなくてはいけないのか、何をやらなくてはいけないのかと思ひ、戸惑いました。川辺町としては定住として何かをしなくてはいけないと思ってきましたが・・・。今年は無理なことを進めるより、できることからスタートしたい。全体をながめることから考えていきたいと思ひます。急いで進むと本来のところから外れてしまうこともあります。全体を統合していこうというスタンスではなく、各町村でプラスになることを形にしていきたい。話し合いをしながら進めていくことが大切。何をするかじっくりと考えていきたい。

田中委員：現在のビジョンがさらに更新されるということですか。事業が増えていくのですか。

事務局：現在は坂祝町・川辺町までのビジョンですが、今年は秋に富加町と七宗町を加えたビジョンを、来年度の春には白川町・八百津町・東白川村を加えたビジョンに更新を予定しています。それに伴い、事業の増減が発生します。ビジョンの案が策定された段階で委員の皆様へ提示させていただく予定です。

田中委員：活動していくうえでの共通のキーワードが必要だと思います。

大矢部会長：共通のテーマをもつことも大切です。

小島委員：なにか見つかると思います。

長谷川委員：これからじっくりと考えていきたい。

加藤委員：事業を進めるにあたり難しいところもあります。試験的な課題もあり、調査が必要な事業もあります。

田中委員：歴史的観光資源を活かした事業、かわまちづくり事業など国との関わりもあって動いていると思ひます。どこまでどのような形で進んでいるのでしょうか、予算との関係もあると思ひますが・・・。

商工観光課長：現在は今渡ダムから坂祝町までの間で進んでいます。広がるとよいと思ひ

ますが、現在の制度に関わっての展開では限界もあると思われます。観光は歴史や文化のなかでテーマをとらえてエリアが広がっていくことが現在は望まれます。

加藤委員：定住自立圏構想は、総務省のなかでうまれた制度。擬似合併の感があります。制度が複雑であり、わかりにくい部分があります。地方は地方でなんとかしなさいという感じにもとらえられるが・・・

事務局：定住自立圏構想は、中心市、この圏域では美濃加茂市と周辺町村がそれぞれの強みを活かして、都市部に依存することなく、この圏域で生活できる体制をつくっていかうということなのです。

小島委員：富加町でも理解が難しいという声はあります。

加藤委員：定住で一緒に進んでいくこと、取り組むことを否定するものではないが、やはり言葉からうまく理解できない部分があります。

坂祝町総務課長：確かに総務省の制度ではあるが、上手に利用してこの圏域で多くの人が暮らせるようにしていこうという取り組みのひとつです。

加藤委員：なんとなく地方は見捨てられたイメージが・・・

坂祝町総務課長：お互いの市町で支えあいながら生活をしていく圏域をつくっていくということも大切です

加藤委員：地域で生活できないなら人口は流出してします。

事務局：この事業を進めれば、人口流出が完全に止まるという事業はないかもしれませんが。しかし小さな取り組みを重ねていくことで、人口流出の流れが鈍化することができるのではないのでしょうか。

大矢部会長：社会では同調性のシナリオができていく感じもします。税収もこれからは増加しないでしょう。やはり圏域で共通の課題を考えていくときです。

小島委員：特産品の開発や販売など、道の駅の運営に関わるようになって、言葉以上にとても難しいと最近感じています。皆さんと一緒に1市7町村でできることをみつけていきたい。

田中委員：こうした形の協議の場ができて、いままで接点のなかった関係者とも交流ができるのでいいです。圏域で力をあわせて取り組みたい。

加藤委員：単一の市町村ではなくエリアとして地域をみることも大切です。各市町村の地図をつなげてみると、ほかの地域からみてももっと魅力的になるのではと思います。

(閉会)